

発言者の議事要旨

社団法人土浦青年会議所理事長 栗野哲雄 氏

- ・ 土浦青年会議所の霞ヶ浦への取り組みの紹介
- ・ 明確な目的を持たなくても、各年代が霞ヶ浦に行ってみたくなるような安らぎと憩いの場をつくる必要がある
- ・ 霞ヶ浦についての問題を市民が見極め、その問題を解決する能力を一人一人が養っていくことが、未来から預かった霞ヶ浦をもっとすばらしい形にして未来に返せる
- ・ 水郷からポータウンへを、都市計画マスタープランに提案している

座長コメント

土浦JCの霞ヶ浦に関する取り組み。そして住民として、安全で、憩い、安らぎの場である、そういう霞ヶ浦ということを求める方向で、それぞれが能力に応じて力を出し合う、また一人一人が未来のために霞ヶ浦の問題は何であるかということを見極める、そういう態度が必要であろうか、というお話があったように伺いました。

霞ヶ浦開発事業連絡調整代表者会議会長 飯田稔 氏

- ・ 霞ヶ浦湖岸の低地の水田は水害の常襲田であり、霞ヶ浦は用水としても殆ど使われていなかった
- ・ 霞ヶ浦開発事業により水害から守られ、水位の確保は用水の安定的な取水につながった。
- ・ 霞ヶ浦開発事業が必ずしも恩恵をもたらしているわけではない。常時ポンプ排水による維持管理費の増加、環境の変化の問題があり、施設管理のあり方について話し合いを継続していきたい
- ・ 循環型社会を農業により実現し霞ヶ浦の浄化を行う事や、浮島和田岬の公園に自然体験ゾーンをつくっていきたい。

座長コメント

特に湖岸で農業を営むという立場から、洪水から守られた、あるいは用水が安定的に確保されたということは、大変結構なことだけれども、例えば水位が上がることによって、排水の問題なんかもいろいろな問題が出てくる。そういう意味で、全体の施設管理というようなことについてもさまざまに検討していく必要がある、というようなところを一番強く伺わせていただきました。

財団法人霞ヶ浦水質浄化推進振興財団副理事長 伊藤 光雄 氏

- ・ 霞ヶ浦の浄化はそれほど目立って進行していない。霞ヶ浦が存在する限り、人間が存在する限り永久的に霞ヶ浦の問題から手を抜き、気を抜くことはできない。
- ・ 霞ヶ浦に対して関心を持ち、水質浄化の意識の高揚を図り、一人一人が理解と関心をもって努力することが必要
- ・ できる限り若い世代、小、中、高を対象として霞ヶ浦の水質浄化の意識の高揚を図りつつ、国、行政、学者先生たちの努力に民間としてできるだけ努力していきたい。

座長コメント

霞ヶ浦水質浄化推進振興財団の働きについてご紹介いただくとともに、基本ということで、人間の生活がある限り、霞ヶ浦浄化という問題は続くん。現状維持だけでも大変なことなので、浄化ということには基本的に個人一人一人の努力によるところが大きいんだ、というお話を伺いました。

霞ヶ浦問題協議会(潮来市長) 今泉 和 氏

- ・ 水質浄化がメインのテーマである
- ・ 行政として、公共下水道の推進、農村集落排水、農村下水道の推進、合併浄化槽の推進を行っている
- ・ 今の小学生や中学生は現在の汚い水が当たり前になっている、非常に恐ろしい
- ・ 水質悪化の原因は、人間が汚しているということ、今の現状を小さな子供たち、主婦の皆さん方お父さんお母さんに教えていかなければならない。
- ・ 水質の浄化に対する啓蒙の大事さ、公共下水道を整備しても加入してくれない現実

座長コメント

沿岸市町村の行政の立場から、やはりメーンは水質である、その問題に対して行政はどうすればよいのか。特に住民の啓蒙ということに対する苦心というようなことを聞かせていただきました。

霞ヶ浦漁業協同組合連合会総括主任 小貫 勉 氏

- ・ 霞ヶ浦開発事業が環境よりも水利用を優先し、徐々にその影響があらわれ始めたのではない。護岸にしたために、砂浜と堤防とが分離して、返し波によるヨシ原の流失が起こり、富栄養化の加速に伴って透明度が低下し、藻類や水草が、それに伴い魚までが減り始めた。
- ・ 少しでも環境をよくしよう、そして水草やいろんな藻類などを繁殖させようということで、数々の工事や試みが行われてきているが、中には工事をしてもすぐに壊れてしまったり、いろんな状態のものがある。もう少し工事が始まる前に地元の漁業者の意見というものも十二分に聞いてもらいたい
- ・ 一般漁業は年々減少しており、非常に深刻な状態となっている。無秩序に放流されたブラックバスやブルーギル、またその他の外来種、などいろんな要因があると思う。
- ・ 霞ヶ浦漁連としても、これらを解決するためにいろんな増殖事業や、それからまた富栄養化の改善にはコイ養殖業の飼料の改良や魚の改種による窒素やリンの除去ということで、できる範囲の中で軽減対策を重ねている。
- ・ これからも永続的に漁業が営めるよう努力していくことが大事

座長コメント

漁業者の立場から、環境問題、湖岸、水質、重要であるけれどもということと、その周り、特に何かやるときには、よく知っている地元の漁業者の意見も聞いてほしいということとか、外来魚の問題などの提起もいただきました。

きたうら広域漁業協同組合代表理事組合長 方波見 和夫 氏

- ・ 現在、このように魚がとれなくなるとは想像もできなかった。大きな理由として、一つ、水草、藻場が少なくなったことだと思う。
- ・ 藻場は魚の産卵場所であったり、隠れ家でもあったり、また孵化した魚のえさであるミジンコなどがたくさんふえて、魚の生存、増殖していく上にも大事な場所である。また、ブラックバス、ブルーギルなどから小魚の身を守るためにも藻場は利用される
- ・ 大事なものは水の中の藻であり、そのことを頭に置いて、水生帯の造成を北浦で進めていきたいと思っている。
- ・ 北浦ではアメリカナマズ、ペヘレイがふえてきた。なぜなのか気になる

座長コメント

今、外来魚のお話を伺っているところですが、これまで魚にとって水草帯といいますが、本当の水草、水の中に生える、いわゆる藻場というものが極めて重要なんだという話を伺わせていただきました。

土浦市消防団 菊田 宏 氏

- ・ 霞ヶ浦に面した地域に生活する我々初め多くの人々は、水との共生によって長い歴史的文化を築いてこられたと強く感じている。しかし、反面、水害に対する恐怖感も常に忘れることのできない日常生活であった。
- ・ 近年、霞ヶ浦周辺の築堤実態を見ると、台風の被害による多量の雨によつての増水による溢水危険とか堤防決壊による出水被害などは考えられない整備状態と受けとめている。しかし、自然災害の恐ろしさは予測できない大惨事を引き起こす危険性が潜在している
- ・ 万一に備えた今後の新たな築堤計画として、自然環境を破壊しない方法での増水調整を目的とした遊水池方式で二次堤防的につくり、増水した水を一時的に滞留させ、調節しながら海洋へ安全に流下させる。また、場合によっては、水量の安全度合いを確認した上で、本流の霞ヶ浦に戻し、生活用水の確保や灌漑用水にも活用できるよう、多くに配慮した水防対策が必要不可欠と思う。

座長コメント

自然に潜在する危険ということで、忘れがちな水防ということの重要性をご指摘いただきまして、遊水池方式の洪水調節というようなことについてのご提案をいただいたかと思えます。

土浦市立神立小学校 栗山 加代子 氏

- ・子供たちにとって霞ヶ浦を魅力あるものにするためにはどのようなものが大切かということについての、3つのポイント
- 1. 子供たちが直接、霞ヶ浦にかかわること
子供たちが直接霞ヶ浦に触れることによって、「汚くて汚れたところ」というふうに放っていた言葉が、湖にはだして入ってしまって、「すてきなところ」というふうになる
- 2. 子供たちが霞ヶ浦を魅力的なところにするために自分たちにもできることはある、ということに気づかせること
自分たちの手で霞ヶ浦をきれいにすることができるという夢を与えること
- 3. 教員である私たちがどう感じ、どう子供たちにかかわるかということ

座長コメント

触れることの大切さ、それから自分たちにはできることがあるということを感じさせることの大切さ、そして大人の側の態度の大切さ、ということをお話いただきました。なお、資料No.1という中に「魅力ある霞ヶ浦に…」ということで、栗山さんのメモがございますので、ご参照ください。

社団法人霞ヶ浦市民協会理事長 堀越 昭 氏

- ・一人一人が、将来、何を望んでいるのか、はっきりと意思表示をする。
- ・今まで20年間、我々は湖を汚してしまった、20年かけて取り戻そうと「泳げる霞ヶ浦 2020」をつくった。内容は、5つのプロジェクト「暮らしのプロジェクト」「身近な川プロジェクト」「水辺交流プロジェクト」「地域経済プロジェクト」「人とひとプロジェクト」と、全体運営、独自の研究室から成る。

座長コメント

市民協会の活動のあらましをご紹介いただき、全体としては、はっきりした意思表示をしていただくということが重要じゃないかというお話もあったように受けとめます。

霞ヶ浦研究会会長 黒田久雄 氏

- ・霞ヶ浦研究会は研究者や市民の方々の方々の横断団体です。統一した意見をまとめるのは不可能です。また、今回は研究会全員の意見を受けるには時間的余裕が無かったため、運営委員の方からの意見をレジメにまとめ提出させていただきました。本日の発表は、会長としてではなく一人一人としての発表です。
- ・流域の水田、休耕田、湿地の自然浄化機能を利用した流域水質管理及び生態系保全畑地や畜産など発生源に近いところで水質浄化することが効果的である。また、水田に湛水することで水質浄化機能だけでなく、水田に依存して生活してきた生物の保護がはかれる
- ・新たな治水対策による霞ヶ浦の自然再生。
地下への浸透域の拡大やため池・水田への一時貯留、機械排水などで治水対策を強化することで常陸川の断面を縮小できる。縮小できれば、海水遡上が起きにくくなり塩害対策にもなる。また、一部堤防の撤去及び引き堤による湖岸帯の再生ができる
- ・移入種の駆除に対する対策
アメリカナマズとかペヘレイ、ブラックバス、ブルーギル、これらを動物のえさ、肥料または動物園、水族館などのえさとして活用できるようなルートをつくって、定期的に除去していくことにより、移入種の対策を行う

座長コメント

提案として湿地利用の水質浄化、自然再生を考えた治水対策、それから、いわゆる移入種、外来種駆除の方策を考えるべきだということをお話いただきました。

茨城県地域女性団体連合会会長、桜井 姚 氏

つくばの住民が霞ヶ浦の水を飲むとは、学園都市をつくるころは思っていなかった。
学園都市の下水道整備に伴う地下水の涸渇という現実と直面し、霞ヶ浦の水を飲む羽目にな

った。いやも応もなしに霞ヶ浦と一緒に運命をともしるという事態に巻き込まれた。

- ・ 霞ヶ浦の流域に住んでいる住民としてできるだけのことをしなければならないということで、小野川、桜川のアオコ監視、漁獲監視、水質などを行いながら、子供たちにつなげることを必死にやっている。
- ・ 人口も倍以上にふえてきている、まして、つくばエクスプレスのような大きな鉄道が入ってくると、人口がかなりの速度でふえていく。
56の河川からいやも応もなしに不可抗力に入ってくる土砂だけは、浚渫として持ち出さない限りは、この水深は守れないと思う。この水深の浅さは、これ以上浅くさせては絶対だめと思う、霞ヶ浦の土砂を工事的に、人工的にきちっと排出するというのを、今までの公共事業のあり方、考え方を大きく変えて取り組まなければいけない最大のテーマというふうに提案したい

座長コメント

いわゆる婦人会の方々の働き、活動とともに、土砂を浚渫で取り除けというようなお話をいただきました。

茨城県企業局工務課長 鈴木 正光 氏

- ・ 霞ヶ浦開発事業で生み出されました利水容量は、42.92tで、このうち、茨城県が都市用水として確保している分は、水道で 2.5t、工業用水道で16.6tの合計19.1tです。
この全部を企業局では事業化をしておりこれから使っていくという形になっている。
- ・ この霞ヶ浦開発で生み出された水により、110万人分の飲料水が確保されている。
この霞ヶ浦開発というのは非常に安い値段で、非常に安定的な水源確保ができた。
- ・ 水質の悪化が進行しており、我々、水道事業を行う者としては、それらの処理に対してなかなか難しい問題を抱えている
水源の水質は、毎年のように変化しており、特に汽水域であった鰯川等については、淡水化が安定化するまでに約40年もかかっている
利根川浄水場ではオゾン、生物活性炭の導入もしているが、水道水の処理が高度化あるいは複雑化しますと、いずれ料金ということで皆さんのところに転嫁させていかななくてはならない、源水水質の保持には最大限の関心を持っていただき、この貴重な県民の財産であります霞ヶ浦の水が安定的に県民に供給できるように、関係各位のご協力をお願いします。

座長コメント

水道事業の立場から、霞ヶ浦開発で安定的で安価な水というのが確保できたんだけど、水質悪化が極めて問題になっているので、皆さんのご協力を賜りたいというような話と伺いました。

大好きいばらき県民会議事務局次長 椿 一則 氏

- ・ 水質浄化は、流域全体のきめ細かな対策が必要である、そのためには、各家庭で一人一人のできるような対策、これを充実させていくのがやはり一番の基本ではないか。
- ・ 子供のうちから霞ヶ浦の汚濁の原因、対策、を知ってもらい、浄化の運動を継続的に広げていくことが非常に重要
- ・ 里山や森林は浄化機能の有効性などいわれており、また開発で失われていくという面もあるため、できるだけ荒廃した里山や森林を住民と一緒に守っていくことも有効ではないか
- ・ 県南の部分は特に開発が今後ますます進んでくる地域であり、流域全体の開発に当たっての水質浄化の観点からの開発手法(住宅開発、道路、駐車場の対策)などを流域全体で取り組んでいく必要がある

座長コメント

水質浄化と県民運動というような関係で、各家庭における努力の重要性、それから住民の力による自然の浄化能力の有効利用、それから最後に、土地開発というようなときにそうした浄化ということを入れたシステムの構築の必要性をお話いただいたように伺いました。

茨城県立土浦第二高等学校教諭 長谷川 博 氏

・霞ヶ浦の流域は、社会状況を見ると、かなり森林が少ない。また、農業、畜産が盛んであるという社会状況にある。
森林が多いところの河川はかなり水質がよいとの結果が得られており、水質と流域の社会状況というのはかなり関連性が高いのではないかと

子供を対象にした環境教育、学習というものは、一番重要ではないのか。次の世代を担う子供たちにとって、環境問題に対する意識、理解を育むことが将来の環境活動の広がりには一番重要ではないのかと考えています。

そして、世代全員に対して関与できるというのは、大人になってしまつとかなり難しいけれども、子供のときは、我々教師側が子供全員に対してかかわり合いを持てる時期ですから、そういう

時期をできるだけ生かしていきたい

座長コメント

高校教育における実践を通して河川水質と流域の状況の関連というようなことを中心にお話しただいて、特に問題をとらえるためには多面的にとらえようとするのが大切だということ、そして最後には、環境教育の重要性についてのご指摘をいただいたということだと思います。

湖岸住民の会代表 濱田 文男 氏

- ・今後、自然再生推進法が施行されますが、真の自然再生とは何か、これを模索し続けなければならない。長期的視野に立った現実的施策、何よりも現実的な施策の遂行と、本当の市民参加というのはどういうものなのか、そういうことを皆さんとともに探っていかなければなりません。
- ・水位管理については、来年秋より運用試験を開始するそうだが、基本的に水位は低く、自然に近い状態に管理すべきであると思う。それも単なる植生対策ということだけでなく、治水、利水、そういう面からも慎重に検討すべき。
- ・今後の交換会では、植生の復元に関する件、水位管理に関する件、この2点をメインテーマとして扱っていただきたい。

座長コメント

植生の復元及びそれに関する事業の問題点ということも含めて、その問題の重要性、それから水位管理という問題、これについてこれから論議を続けていくべきだ。この2つに絞ったご意見を賜ったように伺います。